

平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結）

平成16年1月28日

上場会社名 マミヤ・オーピー株式会社

（コード番号：7991東証第2部）

（URL <http://www.mamiya-op.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 松井 嘉正 （TEL：(048)-858-4880）
 責任者役職・氏名 常務取締役管理本部長 志田 太利夫

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : 中間連結財務諸表作成基準
 会計処理方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有 影響額が僅少な項目につき、一部簡便的な方法を採用しております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無
 公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（単位：百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年3月期第3四半期	10,527	19.1	281	74.4	56	93.9	186	
15年3月期第3四半期	13,007		1,098		925		515	
(参考) 15年3月期	17,557		1,684		1,456		631	

（注）海外子会社「ソニー・エレクトロニクス・LP」は、決算期変更（従来3月期より12月期へ）により16年3月期第3四半期の実績は6ヶ月間となっております。

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
16年3月期第3四半期	4	80		
15年3月期第3四半期	13	25		
(参考) 15年3月期	16	23		

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示す。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期におけるわが国経済は、一部の企業業績に明るさが見られますが依然として個人消費は雇用・所得面の不安から厳しさが継続しております。

このような状況下、当第3四半期の売上高は105億27百万円（前年同期比19.1%減）、経常利益56百万円（前年同期比93.9%減）、当第3四半期純損失1億86百万円（前年同期は5億15百万円の純利益）となりました。

次に部門別に報告致します。

電子機器事業部門では、パチンコ業界の売上低迷の中、新規投資抑制の影響で厳しい情勢ではありましたが売上高は66億12百万円（前年同期比0.8%増）とほぼ前年同額となりました。

光学機器事業部門では、デジタルカメラが当社の主たるターゲットであるプロ及びハイアマチュアの市場を侵食、また最近の円高が影響しアジア市場での買い控えで売上高は19億56百万円（前年同期比50.3%減）となりました。

スポーツ事業部門では、国内ゴルフ市場の低迷が続く中、ジャンボ尾崎（尾崎将司氏）と提携した

ジャンボバージョンの優秀性、開発力の高さが認知され順調に推移しました。なお、子会社ユナイテッドスポーツテクノロジー・LPは決算期変更により当第3四半期の売上高は6ヶ月間となっております。この結果、売上高は16億52百万円（前年同期比34.2%減）となりました。

当期新たに開始しました特機事業部門では、欠陥検査装置・測定機器等が業界に徐々に浸透し、売上高は3億6百万円となりました。また、昨年12月に発売致しましたラインセンサカメラ及び計測専用レンズも今後は業績に寄与する見通しです。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年3月期第3四半期	25,166	2,622	10.4	67.47
15年3月期第3四半期	27,744	2,651	9.6	68.20
(参考) 15年3月期	28,155	2,795	9.9	71.91

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第3四半期	1,711	141	1,528	3,131
15年3月期第3四半期	13	88	1,790	5,188
(参考) 15年3月期	1,442	382	1,839	6,277

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

- ・営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果使用した資金は17億11百万円（前年同期比17億25百万円増）となりました。これは売上債権の増加6億73百万円、仕入債務の減少11億57百万円等の大幅な資金減少要因があったことによるものであります。
- ・投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果得られた資金は1億41百万円（前年同期は88百万円の資金使用）これは主に有形固定資産の売却による収入1億91百万円等によるものであります。
- ・財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は15億28百万円（前年同期比2億61百万円減）となりました。これは主に短期借入金の返済（純額）15億26百万円によるものであります。

これらの結果、現金および現金同等物の当第3四半期末残高は、期首残高から31億45百万円減少し、31億31百万円となりました。

〔参考〕

(1) 第3四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第3四半期	9,452	264	191	91
15年3月期第3四半期	10,901	660	439	388
(参考) 15年3月期	14,547	940	659	372

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
16年3月期第3四半期	23,606	2,240
15年3月期第3四半期	25,625	2,127
(参考) 15年3月期	25,908	2,094

(2) 業績予想に関する定性的情報等

平成16年3月期の連結・個別業績予想については、平成15年11月13日に開示しました内容を変更致しておりません。

以 上